令和元年度第２回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事録

日時:令和元年 10 月 23 日(水)
午後２時から
場所：市役所４階　大会議室

【配付資料】

資料１　　津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿
資料２　　まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の延長について
資料３　　津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理資料

開会

市長挨拶

（市長）

津島市においては、人口減少、少子高齢化などの様々な問題に立ち向かうために平成 27 年度に地方版総合戦略「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

本日は、この総合戦略に関して進捗状況等を説明させていただくので、総合戦略の更なる推進のために忌憚のないご意見をいただきたい。

また、この総合戦略の計画期間は令和元年度が最終年度となっている。国においては、次期総合戦略に向けた新しい視点が示されるなど、改訂に向けた動きが進んでいるが、本市においては、第４次総合計画の計画期間が令和２年度に満了することを鑑み、総合戦略の１年延長を考えている。

出席状況の報告（委員全員出席）

市職員紹介

資料確認

委員長挨拶

今日、津島駅に早めに着き、久しぶりに界隈を１時間程歩いた。こちらの委員になって３年ぐらい。３年前と比べて、どんな感じになっているかと思い、神社の方に歩いた。全体としてそれほどの変化はなかったが、キッチンリエゾンやベーグル屋は客でいっぱいだった。個々では平日の昼にもかかわらずちゃんとやれている。新しい建物が建ったとかいう感じは受けなかったので、まだまだこれからやっていかなくてはならないこともたくさんあるのかという印象を持った。

議題

（１）　津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の延長について

・資料２に基づき、事務局から説明

（委員長）
　これに関しては、そもそものところで総合計画と総合戦略はかぶっているところが当然あるわけで、総合計画というのは、その中で行政全般についての総花的というかすべての行政が係る意味についてのこういうことをやっていきましょうと計画をするわけで、一方、総合戦略はその中でも個々の市町村の発展のためにここを頑張りましょうと取り出して、それをどうしていくかってことをやるので、当然、内容的にかぶるわけで、期間を一致させるというのは合理的なことだと思うが、皆さんよろしいか。

　《異議なし》

　そういうことで、事務局に説明いただいたとおりの方向に進めていただければと思う。

（２）　津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について
・重点戦略１「20～30 歳代の女性の転出を抑制する」について事務局から説明

（委員）
　年間出生数の現状値と言われるのは、５年くらいの平均値のことなのか、平成 30 年度単年度のことなのか。

（事務局）
　この現状値 375 は、平成 30 年度単年度の数字である。

（委員）
　住宅着工数の平成 27 年度の清須市と津島市が伸びているのは、なぜか。

（事務局）
　清須市は社宅の数が一時的に増えたとのこと。津島市の理由については不明。

（委員長）
　全体感として、どの程度やれたのか。

（事務局）
　各課にも具体的なことを提示いただいていて、子育てのことについては、達成度に関しても高い数字が出ているので、子育て支援の充実というところは評価できるのではないかと思う。ただ、ＰＲの仕方など子育て世代の方にもっと知っていただ

けるような手段を考えていかなければいけない。

体力テスト関係についても、資料では横ばいになっているが、学校側のほうでプログラムとしてやっていただいているので評価できると思う。

全体的に評価できることは評価できるが、やはり出生数のところについては、目標値と離れている部分があるので、ＰＲにもう少し力を入れて、子育て世代、今後転入してくる方に情報発信を上手くできたらと思う。子ども医療費のほうも中学生まで無料化しているので、制度としてはよくなってきている。

（委員長）

出生数が目標よりも大分低かったことに関して、出生数というのは出生率が要因の場合と、その出生する世代の女性の数が増えたり減ったり、それが減ると出生数が減ってしまうという二つの要因があるが、可能性としては、おそらく女性の数の可能性が高い。出生率というのは市町村でそんなにばらつきが出るものではないので、そうすると女性の数の話だと。女性の数の話だとすると、女性の数は何で決まるかというと、基本的な津島市の人口ピラミッドがベースになる。５年前に 15～19 だった子は５年後に 20～24 になると繰り上がっていく。今は 30～34 くらいが一番少なくて、その下が増えていて、またその上も結構いるという構造なので、人口ピラミッドの要因ともう一つは転入出。どの要因なのかということはよく調べたほうがいい。リーサスというデータ分析ができるものを見ながらこういうことなんだと何となくわかりました。この要因分析というのは、どこの施策に力を入れなければならないのかということを決めるポイントなので、それはよくご覧になられるといいかなというのが一点。もう一点は、意外に悪くないなと思うのは、A3 の資料左下の 20～30 歳代女性の転入超過数で、基本的に各５歳階級別で４階級全部下がっているが、これを見ると、平成 24・25・26 年、特に 25・26 年あたりに比べると 30 歳代の減りが抑えられている。ここ４年ぐらいはそんなに下がっていない。20 歳代の子、特に 25～29 歳あたりは大抵がよその男性と結婚して出て行ってしまう人たちなので、これはあまり止めようがない。20～30 歳代の中で、一番食い止めなければいけないのは、結婚してこのあたりにいて、それで家を買う時に隣町に行ってしまう人たち。そうすると移動の世代は 30 歳代と思うが、30 歳代はそんなに悪くないので、そんなにやられ感はないというのが私の印象。

もうひとつ、リーサスで 30 歳代の女性だけを取り出した転出超過数の状況を見たが、2018 年の 30 歳代女性の転出超過で、転出超過全体で 67 人、転入超過全体で 61 人ですから 30 歳代に関してはほぼイーブン。転出超過の相手先トップは愛西市で４人だけ。人口全体では愛西への抜けが多いのだけれども 30 歳代の女性に関しては愛西への抜けはそんなに問題がないので、子育て支援策はある程度効いているのかな、という推定が立つ。

（事務局）

リーサスは情報ツールとして活用させていただいている。委員長に言われたとお

り、参考にしながら、分析できるようにしていきたい。

・重点戦略２「就職期の若者の転出を抑制する」について事務局から説明

（委員）
　海部津島合同就職フェアをもう少し追加でご報告させていただく。こちらは、３年前から実施しており、今年で３回目。津島市文化会館で行っている。今年度の結果は、来場者数が 255 名、面接延べ件数が 252 件。企業は 44 社。津島市内の来場者数について、年齢不問で実施していて、若い方ばかりではないが、255 名のうち 62 名が津島市内の方。男性も女性も大体 25％弱が津島市内の方。企業として、津島市内に本店がある会社が 12 社。全体として 27.3％ぐらい。就職者は現在集計中。若者で言えば、高校生の方、ただ、内定率が今すごく高いのでなかなかみえなかったこともあったが、この 255 人の中に４人高校生の方がいて、うち１人の方が昨日時点で、海部津島合同就職フェアの出席の企業に内定をいただいた状況である。

（委員長）
　３年前から、参加者は段々と増えてきているか。

（委員）
　増えてきている。津島市には、共催ということで広報をお願いしている。広報紙やホームページにも掲載していただいている。参加者アンケートによると、「ホームページを見た」、「広報紙を見た」という意見が段々と増えてきている。

（委員長）
　こうするともっと大きくなるとか、ここがネックになっているということで感じていることは。

（委員）
　やはりハローワークだと、今現在お仕事探しをしてみえる、失業給付をもらいにきている、という方々が多くなるという状況。実際に探す気持ちのある人たちが来てくれているからよろしいかと思うが、海部津島の合同就職フェアも結局８割方が雇用保険受給者という状況である。一般の方になかなか広報ができずに、私どももどうしようかなとは思っている。あと、高校生の方がもう少し来ていただけると、というところ。

（委員長）
　全体感として就職期の若者の転出抑制はどんな感じか。

（事務局）

企業誘致等の部分も含めて、こちらの方も評価はできると思ってはいるが、就職雇用関係について、委員からも説明があったとおり、随時やっているし、今後どうやって増やしていくかも課題にはなるが、こちらの方は引き続き、上手く展開していければと思っている。

・重点戦略３「名古屋市への通勤者の転入を増やす」について事務局から説明

（委員長）
テーマは「名古屋市への通勤者の転入を増やす」という議論だが、要するにそれがどうなったかということが、あんまり伝わってこなくて、説明の大半は、KPI はどのくらいできたかというところに行ってしまうもので、今ここで議論すべきことは、名古屋市への通勤者の転入を増やすことができたかできてないか、できていないのだったらなんでできていないのかを議論するのか、個々の KPI についていいか悪いかを議論するのか、どちらなのか。

（事務局）
名古屋市への通勤者の転入を増やすという重点戦略の中で、いろいろと数値目標を定めてやっているところ。実際に名古屋市への通勤者の方が津島市に転入されたかというところまでは、正直なところ分析をしていないが、名古屋市の方が津島市に転入してきた数が増えているところがあるので、その辺は数字的に見て評価ができるのかと思う。

（委員長）
この会議は KPI のご報告をいただいて、達成ができている、できていないということは、この会の要素として必要なことか。

（事務局）
基本目標で掲げている部分があるので、KPI がどうかということは、平成 30 年度実績ということで挙げたので、その辺は見ていただきたい。

（委員長）
はい、以上を踏まえて、ちょっとなかなか意見を言いにくいかもしないが、このテーマに関しても、全体感として、名古屋市への通勤者の転入を増やすということは、どうか。

（事務局）
こちらはなかなか一概に評価は難しいが、数字的なところを見ていくとまあまあできたのではないか。

（委員長）
　A3 資料の３番の下、転入元別転入者数の折れ線グラフは、転入超過にしなかったのはなぜか。一方で津島市から名古屋に転出したり、愛西に転出したりということもあるわけだから。

（事務局）
　名古屋市からの転入が 461 名、転出が 472 名、差し引き 11 名の転出超過になる。

（委員長）
　このグラフは転入だけをとって、転入の折れ線を書いているのだけれども、このグラフを見て名古屋市への通勤者の転入を増やす、確かに転入を増やすのはいいけれど、一方でだだ漏れだとトータルで減ってしまう。そうするとこのグラフというのは、転入の超過者数でグラフを作らないとよくわからない。

（事務局）
　委員長のおっしゃるとおりで、転入別で見た場合で数字を挙げさせていただいているが、片や転出もあるので、その辺の比較ができるように手直しをしていきたい。

（委員長）
　全体感としては結構名古屋への通勤者の転入がとれるのではないかという感触か。

（事務局）
　そのとおり。

・重点戦略４「元気で魅力的な都市のイメージを形成する」について事務局から説明

（委員長）
　ご意見がないようなので、今日の議題はこれにて終了とする。

（市長）
　４つの重点戦略を掲げてやっているところである。この地方創生というのは第１期ということで、この５年間国からお金を４億 2,700 万円いただいた。国からいただいたお金を上手く、このスキームでもって活用した。そんな中で、賑わいを創出したい、滞在型観光をやりたいというような形で、いろいろ津島市には食べるところがない、寝るところもない、遊ぶところもないというようなことであったが、委員長からもお話があったようにベーカリーができたり、ゲストハウスができたり、まち歩きツアーができたり、御朱印ができたり、謎解きゲームができたり、コンシェルジュが育ってきたりというような形で地道に地域の価値を上げようと、魅力を

高めようというような活動をしてきた。少しずつではあるが、出来ている部分があると思う。ただ、重点戦略の４つを見ていただくとわかるようにこれらは大変厳しい数字が出ていると思う。ご存じのようにどこでも同じような傾向があるけれど、成人式で津島市は 700 人位いるが、出生数はその半分の 350 人程度という非常に厳しい状況である。20 年後どうなるか真剣に考えておるわけだが、本当に大変なことになるというのが日本の現状である。これを国の地方創生の戦略を考える第２弾が出ているので、１年間先延ばしするという話ではなくて、要は切れ目のないということでご承認していただいたということで、市の方もこの第２弾の総合戦略をしっかりやることにより、定住人口、移り住んでいただく人口、これも厳しいものがある。交流人口や関係人口を増やしていかなければいけない、ということで職員もよくわかっており、私も正にこの危機的な状況を認識している。というのであるので、いかに総合戦略第２弾を切れ目のないようにやることが勝負だということで、正にこの定住施策を具体的に挙げなくてはいけないし、この都市イメージ、それから、通勤者への呼びかけも具体的に挙げていかなければ津島市は生き残れないと考えている。いずれにしても厳しい状況をなんとか皆様の意見をいただきながら、津島市が生き残るためにこの地方創生総合戦略を進めていきたいので、皆さまのお力添えをいただくことをお願い申し上げてお礼の挨拶とする。

その他

（事務局）

推進委員会の委員の任期については、途中で変更があった方も含めて、今年度末に任期満了となる。しかしながら、先ほど説明させていただいた第２期総合戦略に策定・推進について、委員においては、引き続きご協力いただきたい。

閉会